



水俣市の坪谷で現地検証をする  
峯俊之裁判官 (左から二人目)

関東や鹿児島県在住の水俣病認定申請者ら四百人が、同訴訟は、提訴が早い六月、熊本の加害責任を問う、司法認定と一人一律千九百八十万円(弁護士費用を含む)、総額約七十八億八千万円の損害賠償を求めた「水俣病東京訴訟」の出張尋問が三十日から、鹿児島出水市の出水簡裁で始まった。

同訴訟は、提訴が早い六月、熊本の加害責任を問う、司法認定と一人一律千九百八十万円(弁護士費用を含む)、総額約七十八億八千万円の損害賠償を求めた「水俣病東京訴訟」の出張尋問が三十日から、鹿児島出水市の出水簡裁で始まった。

同訴訟は、提訴が早い六月、熊本の加害責任を問う、司法認定と一人一律千九百八十万円(弁護士費用を含む)、総額約七十八億八千万円の損害賠償を求めた「水俣病東京訴訟」の出張尋問が三十日から、鹿児島出水市の出水簡裁で始まった。

# 堂々と定員外保育

## 改善指示にプレハブ園舎

熊本市の2園

熊本市内の二つの私立保育園が定員の1.5倍以上の幼児を入園させ、市の改善指示を受けたあと、定員外の園児らを近くに新設したプレハブで保育していることが三十日わかった。県、熊本市は六月一日に関係者から事情聴取するなど本格的な調査に乗り出す。大量の定員外保育は一年半前に問題化したばかりなのに、関係者はショックを受けている。

この保育園は、熊本市御幸笛田町の社会福祉法人「御幸福社」(園田正光理事長)が経営する御幸一と保育園(定員九十八人)、リズム幼稚園(定員六十人)。父母からの連絡を受けた熊本市が調査したところ、それぞれ約四十五人、合計九十人程度の定員外園児がいることがわかった。定員外入園は一三年前からという。このため、市は三月三十日、園長を呼び、保育が必要な園児の把握、園児を他の保育園に移すことを含めた定員外の解消などを一月以内に実行するよう指示した。

この問題について同園関係者は「共働き家庭などからの要望が強く、仕方なかった。プレハブについても、

園児の父母から、どうにかしてほしいと頼みこまれ、子供には迷惑をかけられないので建てた。ただ、プレハブはイメージ的にもよくないし、他の保育園に移るよう親を説得している」と話している。

ところで、熊本市は定員外の解消を指示したあと、保育園から報告を受けただけで、園児のその後の措置について全く把握していなかった。また、県にも報告しておらず、対応の鈍さに批判の声も出ている。これに対し、市保育課では「日



定員外園児らを保育するため園が建てたプレハブ園舎

程の都合でできなかった。県には最終結果を報告しようと思っていた」としている。

保育の質の低下を恐ろげない定員外入園は、昭和六十三年末に、熊本市議や菊池市議が経営する保育園で発覚。熊本市議の保育園の場合は、同市議が一億円以上の保育料を不正流用していたことがわかり、社会問題化した。このため、熊本市保育連盟は十一月、定員外入園はさせないことを申し合わせていた。

ことし十一月三、四日に山鹿市の芝居小屋「八千代座」(国指定重要文化財)で舞踊公演を行う歌舞伎界の花形役者、坂東玉三郎さん(会)は三十日、東京・六本木の熊本会館で中原市長とともに記者会見し、「八千代座の復興のためにお役に立ちたい」と語った。

玉三郎さんの山鹿公演が実現することになったのは、八千代座の完全復興と活用を願う市民の一人が来演依頼の手紙を出したのが

# 八千代座復興に役立ちたい

公演の成功を  
三郎さんと

玉三郎

東玉三郎八千代座舞

本県山 市

11月

漆塗りなどの補修を行い、十一月十二日の即位の礼に十日明け